

第2章 基本構想

2-1 まちづくりの基本理念

1 総合計画の目指すもの

(1) 基本理念と基本目標

能代市総合計画では、「能代市民の“和”～人が輝くまち～」「環境で活力を生み出す“環”～たくましく元気なまち～」「未来へつながる“輪”～安心して暮らせるまち～」を基本理念として、「“わ”のまち能代」を将来像に掲げています。

【総合計画の基本目標】

1 輝きとぬくもりのまち

お互いが認め合い、誰もが分け隔てなく、心豊かにいきいきと暮らせることが大切です。

私たちは、健やかに暮らしながら、一人ひとりが誇りを持てるよう、「輝きとぬくもりのまち」をめざします。

2 元気とうるおいのまち

優れた地域資源である自然環境と共生しながら、この地域が生き残っていかねばなりません。

私たちは、地域の可能性を信じ、環境を核とした産業振興で現状を切り拓き、地域経済に活力を生み出すことができるよう、「元気とうるおいのまち」をめざします。

3 安全と安心のまち

安らぎのある暮らしのためには、確かな生活基盤が必要です。

私たちは、身近な地域の課題を共有し、お互いに役割を持ちながら、地域の暮らしが向上できるように、「安全と安心のまち」をめざします。

(2) 優先して取り組むべき課題

総合計画では、本市における人口減少と少子高齢化、地域経済の低迷や雇用情勢、厳しい財政事情などの現状に対応し、基本構想に定める将来像を実現するため、基本目標ごとに、優先して取り組むべき課題を位置づけています。

これからのまちづくりにおいて、希望ある将来への道筋を築いていくためには、市民の生活基盤の確立、特に「若者の定住に結びつく産業の創出や雇用の確保」などへの取組が極めて重要として最優先課題として挙げられており、本都市計画マスタープランにおいても、優先的な課題として取り組んでいく必要があります。

【○ 優先課題（● は最優先課題）】

○市民が地域で活躍できる環境の整備 〈基本目標：輝きとぬくもりのまち〉

●若者の定住に結びつく産業創出と雇用確保 〈基本目標：元気とうるおいのまち〉

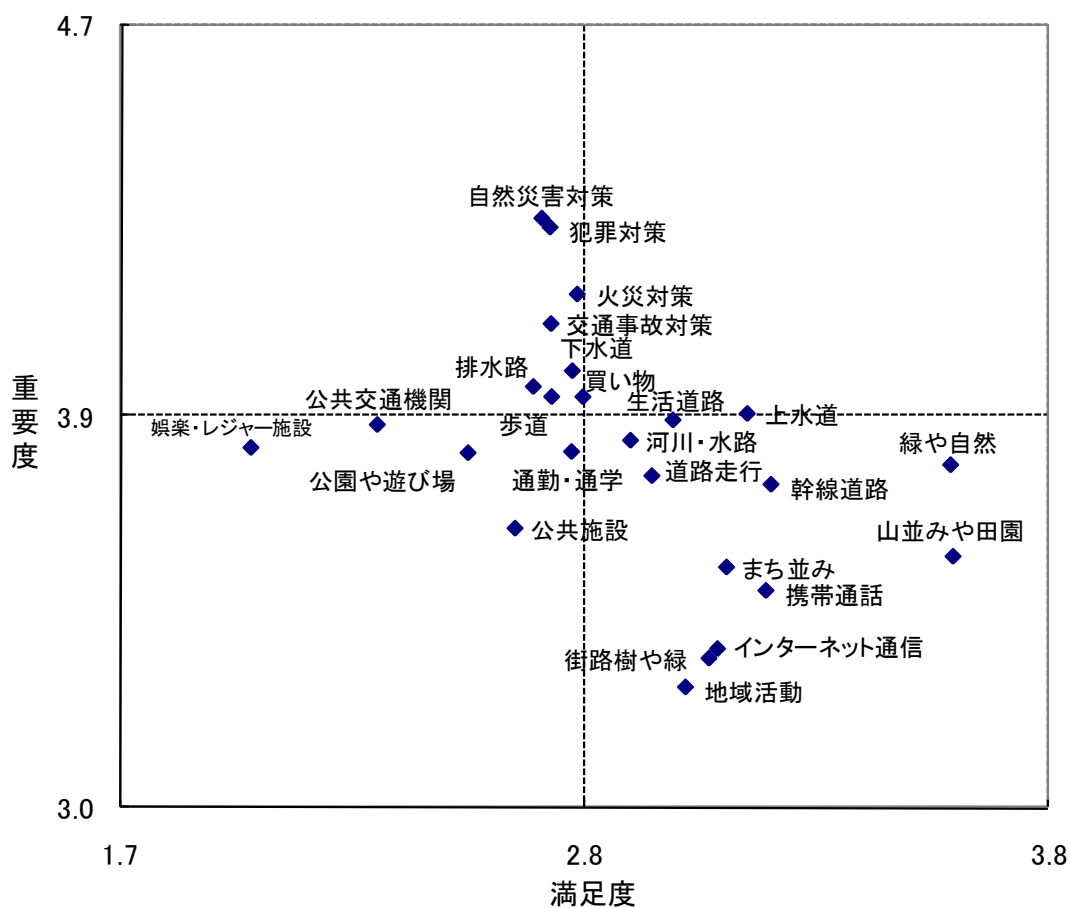
○暮らしの向上と安心の確保 〈基本目標：安全と安心のまち〉

2 市民による能代市の評価からみた課題

能代市都市計画マスタープラン市民アンケートにおける「施策の満足度・重要度」からは、以下のことがうかがえます。

- 緑や自然の豊かさ、山並みや田園の美しさなど、自然環境・景観に関しては満足度が高くなっています。
- 防災・防犯に関する事項や、交通事故対策、下水道、排水路、歩道、買い物の便利さ等について重要度が高いのに対して満足度が低く、今後取り組むべき課題といえます。

満足度と重要度の関連



3 キーワードと課題

総合計画で掲げている基本理念や基本目標、優先課題からは、「誰もがいきいきと暮らせるまち」「産業創出と雇用確保による活力あるまち」「暮らしの向上と安心の確保による安全と安心のまち」といったまちの姿が導き出されます。

また、市民による能代市の評価からは、「緑や自然が豊かで、山並みや田園が美しいまち」「防災・防犯対策などが充実した安全なまち」「生活環境が整備され、買い物などが便利な快適で暮らしやすいまち」といったまちの姿が導き出されます。

これらをもとに、本マスタープランで目指すべきまちの姿を土地利用の視点でとらえ、「【自然】豊かで、【産業】が活発で、快適に【安心】して住み続けられ、【人】が集まるまち」という4つのキーワードに分類し、キーワードごとに現状と課題を抽出・整理します。

キーワード	現状と課題
自然	<ul style="list-style-type: none"> ■ 白神山地をはじめ、豊かな自然は、地域の誇れるものとなっています。 ■ 小友沼は、国際的に重要な渡り鳥の飛来地として注目を集めています。 ■ 環境を守るため、人と環境にやさしいまちをつくることを宣言しています。 ■ 各地域が有する自然などの資源を最大限に利活用していくことが望ましいと考えられます。
産業	<ul style="list-style-type: none"> ■ 秋田県北部エコタウン計画やバイオマスタウン構想と連携した関連企業の立地などの取組を進めています。 ■ 物流拠点港として、能代港のさらなる利活用が期待されます。 ■ 能代東ICの開通などによる、能代工業団地のセールスポイントをアピールしていく必要があります。 ■ 地元企業や工業団地の進出企業の中には、国内トップクラスの技術力によって、業績を上げている企業もあります。 ■ 林業から木材産業、そして販売へと、一体的な取組による新たな効果が期待されます。 ■ 県内の木材業界では、乾燥秋田スギ認証制度の創設や秋田スギ集成材の生産工場の設置等、地場産材の需要拡大に取り組んでいます。 ■ 農産物の地産地消と地域ブランドの確立に努める必要があります。 ■ 集落の過疎化や高齢化等から、農地の耕作放棄や森林の管理放棄等、保全管理が難しくなっています。

キーワード

現状と課題

安心

- 少子化や核家族化が進む中、家庭・学校・地域が連携しながら児童を育てる環境づくりが求められています。
- 高齢者世帯の増加等を踏まえ、いつまでも住み慣れた地域で元気に暮らせるような体制づくりが必要となっています。
- 自動車を運転できない高齢者などの移手段の確保が課題となっています。
- それぞれの地域が有する資源を最大限に利活用しながら、市全体として、魅力ある都市として成り立っていることが望ましいと考えられます。
- 火災の予防に努め、火災発生件数の増加を防ぐ必要があります。
- 米代川など河川増水による水害への対応策の検討を進め、地域防災計画や水防計画に反映し、市民に周知していく必要があります。
- 河川整備にあたっては、ゆとりと安らぎのある水辺空間としても配慮しており、地元自治会でも桜の植栽や保全を行うなど、市民の憩いの場の整備に貢献しています。
- 水道未普及地域の解消や簡易水道の統合など、水道の整備や充実が求められています。
- 新たな生活排水処理構想に基づいた下水道の整備推進が求められています。
- 公園は、市民に身近な休息や憩いの空間として利用されるほか、地域交流の場となっています。
- 自治会・町内会から生活環境の整備要望が市に多く寄せられています。

人

- 地域住民が主体となって、まちづくり協議会を設立し、さまざまな活動が進められています。
- 地域の民俗芸能や民俗行事など、地域固有の文化は、地域づくりや地域の教育力への効果が期待されています。
- 市民活動の参加意欲の高まりに応え、市民へのボランティア情報の発信や、団体間の連携が必要となっています。
- 中心市街地活性化のため、市民などで構成する協議会で、中心市街地活性化計画を策定しています。
- 郊外大型店の進出については、他の地域に買い物に出かける人を地元につなぎとめたり、他の地域から買い物に訪れる人を地元商店街での交流人口の増加につなげる視点から、商店街や市民、行政による一体となった取組が必要となっています。
- 「バスケットの街のしろ」の知名度を活かしたまちづくりや、宇宙イベントを通じた関係市町との交流など、本市の特色を活かしたまちづくりを進めています。
- 観光客が多く訪れているイベントや伝統行事などは、地域の誇れるものとなり、根強い人気うかがえます。
- 観光客に、魅力ある地域として広くPRしていくためには、広域的連携の強化が必要となります。

4 まちづくりの理念

能代市都市計画マスタープランの基本理念を次のように定めます。

豊かな自然と共生するまち

産業と雇用を創出する活力あるまち

快適に安心して住み続けられるまち

人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち

豊かな自然
と共生する
ま ち

本市は、豊かで優れた価値を有する多くの自然環境に恵まれており、これらの自然環境は、貴重な財産として保護・保存し、将来の世代に伝えていかなければなりません。

私たちは、本市の豊かな自然を守り続けていくため、豊かな自然と共生するまちづくりを進めます。

産業と雇用
を創出する
活力ある
ま ち

全国的な少子・高齢化等により人口の自然増は望みにくい状況の中、今後の本市においては、地域の次代を担う若者等の定住を促進していかなければなりません。

私たちは、この地域が生き残り、希望ある将来への道筋を築いていくため、産業と雇用を創出する活力あるまちづくりを目指します。

快 適 に
安 心 して
住 み 続 け ら
れ る ま ち

本市は、過去に多くの災害を経験し、これらを教訓とした災害に強い安全なまちづくりや、誰もが安心して暮らせる生活環境づくりを進める必要があります。

私たちは、地域の暮らしを守り、快適に安心して住み続けられるまちづくりを目指します。

人が集まり
交流により
にぎわいが
生まれる
ま ち

まちのにぎわいを創出するためには、市外から訪れる人を呼び込むことや、各地域が互いに連携・交流することが必要です。

私たちは、地域の元気につながるよう、地域資源を最大限に活用して、人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまちづくりを進めます。

2-2 将来都市像

基本理念で示した本市の目指すべき都市の姿・都市づくりの目標を達成するために、主要な都市機能や道路網、土地利用等の基本的な方向づけを行い、将来あるべき本市の都市像を示すものです。

4つの基本理念ごとの将来都市像の考え方は、以下のとおりです。

豊かな自然と共生するまち

本市は、日本海や世界自然遺産である白神山地、米代川の水辺、風の松原や小友沼、きみまち阪県立自然公園や仁鮎水沢スギ植物群落保護林の日本一高い天然秋田杉、市街地を囲む田園、山林等、豊かで優れた価値を有する多くの自然環境に恵まれ、四季折々の景観が人々にうるおいや楽しみを与えています。

今後、この豊かな自然を守り続けていくためにも、自然環境の維持・保全を図るとともに、水質汚濁や騒音、大気汚染等による環境への負荷を軽減し、豊かな自然と共生するまちづくりを進める必要があります。

このような視点から、新たな土地利用については、原則として、現在の用途地域内への誘導を図ります。

また、用途地域をとりまく田園や山々などの自然は、市民が都市生活を営む上で欠くことのできないものとして保全・活用し、緑豊かな都市の形成を目指します。

産業と雇用を創出する活力あるまち

本市では、大型風力発電施設及びバイオマス発電施設の稼働や、石炭灰と廃プラスチックを使用したコンクリート代替製品の製造企業が立地するなど、着実に環境・リサイクル産業が育ちつつあり、今後、大きく成長していくものと期待されます。このため、本市においては、環境・リサイクル関連産業立地促進のための施策を展開していくことが重要です。

また、地域の発展と人々の生活に欠かせない基本的な産業である農業の振興や、木の良さを生かした林業・木材産業の経営強化や育成など、地域産業の活性化も求められています。

地域の次代を担う若者等の定住を促進するためには、新たな産業の創出や既存産業の振興により雇用を確保し、現状を切り開いていくことが最重要課題であり、本市の土地利用においても最大限に考慮していかなければなりません。

このような視点から、リサイクルポート能代港を中心に、既存工業団地等の未利用地の活用を図りながら、秋田県北部エコタウン構想と連携した資源リサイクル産業の立地を目指すとともに、能代東 IC 付近については、交通機能を最大限に活用しながら、地域全体の発展へとつながる土地利用を目指します。

快適に安心して住み続けられるまち

本市は、大火、洪水、地震等、過去に多くの災害を経験してきました。これらを教訓とし「燃えないまちづくり」を目指した都市計画事業、堤防整備や護岸工事などの治水事業、公共施設及び都市基盤の耐震化等さまざまな施策が進められてきましたが、今後も災害に強い安全・安心なまちづくりを推進していきます。

また、厳しい財政状況を踏まえながらも、少子高齢化や人口減少に対応した地域の生活利便性の向上も図らなければなりません。

このような視点から、現在、人が住んでいる各地域の都市基盤を最大限に利活用しながら、一つの地域で満たされない機能については、他の地域との連携により充足することにより、住み慣れた地域に住み続けられることを目指します。

また、そのために、公共交通機能充実等も含めた生活道路ネットワークの構築を目指します。

人が集まり、交流によりにぎわいが生まれるまち

まちのにぎわいを生み出すには、情報を発信し、広域からの人の交流を増加させるとともに、地域間の交流ネットワークを形成していくことが重要です。

このため、能代地域においては、子供から高齢者まで気軽に集える、本市の顔としてふさわしい中心市街地の活性化、二ツ井地域においては、中心部を核とした、にぎわい創出や地域づくりを推進し、それぞれの地域が共に連携しながら、活力に満ちたにぎわいを生み出せるまちづくりを進めていく必要があります。

このような視点から、港や空港、鉄道及び高速道路などの広域交通体系の整備・活用を促進し、広域的な集客を目指した土地利用を図りながら、中心市街地への人の流れを生み出し、交流やにぎわいのあるまちづくりを目指します。